

病害虫発生予察情報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

6月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期	
水稲	いもち病（葉いもち）	並	並	果樹	果樹全般	カメムシ類	多い	—
	紋枯病	やや少ない	並		りんご	褐斑病	やや多い	—
	斑点米カメムシ類					輪紋病	並	並
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや少ない	—			ハダニ類	並	—
	アカスジカスミカメ	多い	—			キンモンホソガ	少ない	—
	トゲシラホシカメムシ	やや多い	—			カイガラムシ類	やや多い	並
	ニカメイガ（第一世代）	並	並			日本なし	黒星病	やや多い
	イネミズゾウムシ	多い	—		輪紋病		並	並
	イネドロオイムシ	並	並		ナシヒメシンクイ		並	—
	ツマグロヨコバイ	並	並		ハマキムシ類		多い	—
大豆	萎疫病	やや多い	並	カイガラムシ類	多い	並		
	タネバエ	並	並	ハダニ類	並	並		
	ネキリムシ類	並	—	ぶどう	灰色かび病	並	並	
野菜	野菜全般	タバコガ類	並		べと病	並	並	
		ネキリムシ類	並	—	かき（三社）	フジコナカイガラムシ	やや少ない	—
	白ねぎ	さび病	並	並	もも	せん孔細菌病	やや多い	—
		ネギアザミウマ	並	—	花き	チューリップ	球根腐敗病	やや多い
ネギハモグリバエ	並	並	アブラムシ類	やや少ない		—		
				花き全般	タバコガ類	並	並	

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6 日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3～5 日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2 日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6 日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稲

1 いもち病 (葉いもち)

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 6月24日にかけての降水量は平年並か多い見込みで、気温はほぼ平年並みと予想されている。(+)
- ・ 前年の発生量は少なかった。(－)

(3) 防除対策

- ・ 放置されている補植苗は、速やかに処分する。
- ・ 平年の初発日は7月10日であるが、気象条件によっては6月中旬に確認されることがあるので、BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）を基に、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照



図1 いもち病のり病葉



BLASTAM 情報
(毎週火曜更新)

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 前年9月5日調査では発病株率が3.0%で平年(9.7%)より低かった。(－)

(3) 防除対策

- ・ 平年の初発確認日は6月25日であることを踏まえて、ほ場の観察に努める。
- ・ 防除指針 29～30 ページ参照



図2 紋枯病のり病株

3 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ)

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.7頭で平年(1.7頭)より少なく(図4)、確認地点率は28.9%で平年(32.5%)並であった。(－)
- ・ 6月24日にかけての降水量は平年並みか多い見込みで、気温はほぼ平年並と予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・ 防除指針 42、44ページ参照



図3 アカヒゲホソミドリカスミカメ

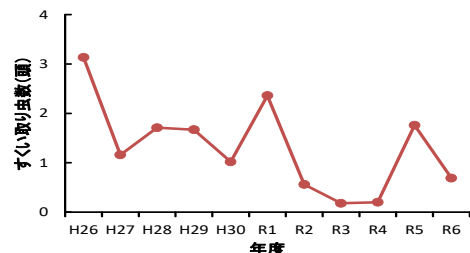


図4 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り虫数年次推移(5月20日調査)

4 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は6.8頭で平年（1.8頭）より多く（図6）、確認地点率は64.4%で平年（30.1%）より高かった。（+）
 - ・ 6月24日にかけての降水量は平年並か多い見込みで、気温はほぼ平年並と予想されている。（-）
- (3) 防除対策
- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
 - ・ 防除指針 42、44ページ参照



図5 アカスジカスミカメ

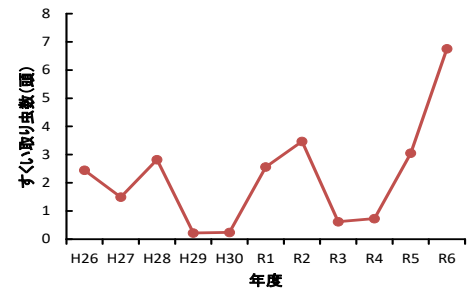


図6 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

5 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.11頭で平年（0.07頭）より多く（図7）、確認地点率は8.9%で平年（4.9%）より高かった。（+）
 - ・ 6月24日にかけての降水量は平年並か多い見込みで、気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 畦畔や周辺雑草地の刈り取りを徹底する。
 - ・ 防除指針 43～44ページ参照

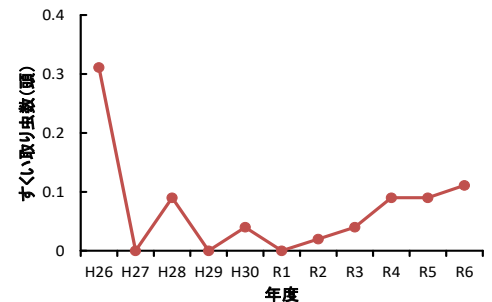


図7 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

6 ニカメイガ（第1世代）

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年の越冬前10 a 当り生幼虫数は783頭で平年（235頭）より多かった。（+）
 - ・ フェロモントラップによる5月1半旬から5半旬までの誘殺数は39.4頭で、近年値（63.9頭）より少なかった（図9）。（-）
- (3) 防除対策
- ・ 前年に被害が多かった地域では、幼虫の発生がだらつくため、箱施薬剤を施用した場合でも必要に応じて適期に本田防除を行う。
 - ・ 防除指針 37～38 ページ参照



図8 ニカメイチュウの幼虫（左）と心枯れ被害（右）

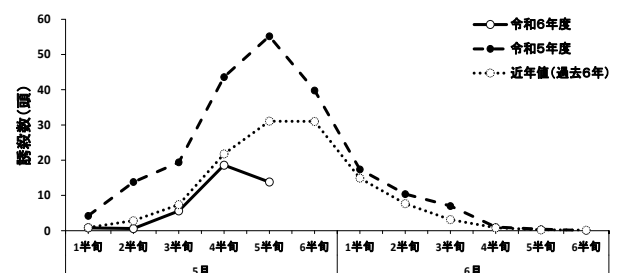


図9 ニカメイガフェロモントラップへの誘殺数の推移

7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 5月20日の調査では、被害葉率3.3%で平年(0.6%)より高かった(図11)。(＋)
 - ・ 近年、イネミズゾウムシによる被害は増加傾向にある(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 成虫の食害被害が多い場合は、早めに中干しを行う。
 - ・ 防除指針 36 ページ参照



図10 イネミズゾウムシとその食害

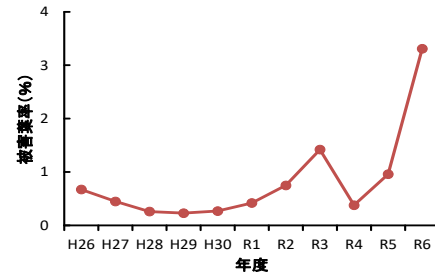


図11 イネミズゾウムシの被害葉率
年次推移(5月20日調査)

8 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 5月20日の調査では被害葉率が0%で平(0.0%)並であった。(－)
 - ・ 6月24日にかかけの降水量は平年並か多い見込みで、気温はほぼ平年並おと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 37 ページ参照



図12 イネドロオウムシの幼虫と
その食害

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 越冬後調査のすくい取り虫数は0.0頭で平年(0.2頭)より少なかった。(－)
 - ・ 前年の発生量は多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 39ページ参照



図13 ツマグロヨコバイの雌成虫(上)
と雄成虫(下)

Ⅲ 野 菜

1 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガが0.3頭で平年（0.9頭）より少なく、オオタバコガは2.7頭で平年（0.9頭）より多かった。（±）
- ・6月24日にかけての気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・防除指針 68～128 ページのタバコガ類の項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月5半旬までの誘殺数は、タマナヤガが18.0頭で平年（23.4頭）よりやや少なく、カブラヤガは88.9頭で平年（99.3頭）並であった。（±）

(3) 防除対策

- ・茎切断率が15%を超える場合には随時防除を行う。
- ・防除指針 70～131 ページのネキリムシ類の項参照

3 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・5月25日の調査では被害株率が0%で平年（3.0%）より低かった。（－）
- ・6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（＋）
- ・6月24日にかけての気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・防除指針 97 ページ参照



図 16 さび病の葉の病徴（夏孢子）

4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・5月25日の調査では被害株率が15.2%で平年（14.7%）並だった。（±）
- ・6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（±）
- ・6月24日にかけての気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・防除指針 99～100 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 5月25日の調査では、被害株率が3.2%で平年(5.3%)より低かった。(－)
 - ・ 6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されており、気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 99 ページ参照



図17 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は42.3頭で、平年(3.3頭)より多かった。(＋)
 - ・ 6月24日にかけて気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 令和6年5月23日発表の病害虫発生注意報第1号参照。
 - ・ 防除指針：りんご 135、140～141、143～145 ページ、日本なし 147、152、155～156 ページ、かき 163、167 ページ、もも 169～170、172 ページ参照



図18 チャバネアオカメムシ成虫

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・ 6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分確保する。
 - ・ 降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上空かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・ 主枝や亜主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
 - ・ 防除指針：135、137～138、142～143ページ参照



図19 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・6月24日にかけて降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
 - ・これまでの生育の進みは平年並であった。(並)
- (3) 防除対策
- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・防除指針：135、138、142～143ページ参照

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・6月24日にかけての気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
 - ・6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、早期防除に努める。
 - ・防除指針：135、139、141～142、144～145ページ参照



図20 ナミハダニの成虫

5 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は0.0頭で、平年(2.3頭)より少なかった。(－)
- (3) 防除対策
- ・第1世代成虫発生盛期(平年は6月上旬頃)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・防除指針：135、139～141、143～144ページ参照



図21 キンモンホソガによる被害葉

6 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は多かった。（+）
 - ・6月24日にかけての気温はほぼ平年並と予想されている。（並）

- (3) 防除対策
- ・前年に発生が多かった園地では、アプロードフロアブル（1,000～1,500倍）を散布する。
 - ・防除指針：135、140～141、143～145ページ参照

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**

- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は、平年並であった。（±）
 - ・6月24日にかけての降水量は平年並が多いと予想されている。（+）

- (3) 防除対策
- ・り病した果実や葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・防除指針：147～151、154ページ参照



図 22 日本なしのり病幼果

8 日本なしの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった（-）
 - ・6月24日にかけての降水量は平年並が多いと予想されている。（+）
 - ・これまでの生育は平年並であった。（並）

- (3) 防除対策
- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・防除指針：147～151、154ページ参照

9 日本なしのナシヒメシクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は6.6頭で、平年並（8.6頭）であった。（±）
- (3) 防除対策
 - ・第1世代成虫発生盛期（平年は6月2半旬頃）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・防除指針：147、151～152、155～156ページ参照

10 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は5.6頭で、平年（3.0頭）より多かった。（+）
 - ・県内主産地の一部地域では、巻き葉などの被害が多かった。（+）
- (3) 防除対策
 - ・越冬世代成虫発生盛期（平年は5月4～5半旬頃）の7～10日後に防除を実施する。
 - ・防除指針：147、151、155～156ページ参照

11 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は多かった。（+）
 - ・6月24日にかけて気温はほぼ平年並と予想されている。（並）
- (3) 防除対策
 - ・6月上旬は重要防除時期なので、アプロードフロアブル（1000倍）を確実に散布する。
 - ・防除指針：147、151～152、155～156ページ参照

12 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・6月24日にかけての気温はほぼ平年並と予想されている。（±、並）
- (3) 防除対策
 - ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、早期防除に努める。
 - ・防除指針：147、152～153、155～156ページ参照

13 ぶどうの灰色かび病

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
 発生時期 : 並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- ・これまでの生育の進みは平年並であった。(並)

(3) 防除対策

- ・6月上旬は重要防除時期なので、散布間隔が10日以上空かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・開花前から結果枝の誘引などを適正に行い、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い園地では、フルピカフロアブル(2,000～3,000倍)を散布する。
- ・防除指針：158～162ページ参照

14 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
 発生時期 : 並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや少なかった。(－)
- ・6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- ・これまでの生育の進みは平年並であった。(並)

(3) 防除対策

- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：158～161ページ参照

15 かき(三社)のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発 生 量 : やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月1～3半旬の誘殺数は56.0頭で、平年(81.3頭)よりやや少なかった。(－)

(3) 防除対策

- ・第1世代ふ化幼虫発生期(平年は6月下旬～7月上旬頃)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：163～164、166～167ページ参照



図 23 フジコナカイガラムシの雌成虫

16 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・6月24日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・果実への感染を防ぐため、6月中旬までに袋掛けを終了する。
 - ・発生が多い園地では速やかに袋掛けを終了し、ICボルドー412(50倍)を散布する。ただし、薬害防止のため、散布後2～3日程度降雨が予想されない時期を見計らって散布する。
 - ・防除指針：169～170、172ページ参照

V 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・植え付け時(10月下旬、11月上旬)の地温が高めに推移した。(＋)
 - ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。(＋)
 - ・6月24日にかけての気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・り病株の抜き取りを徹底する。
 - ・適期の掘り取りに努める。
 - ・掘り取り後は速やかに水洗・乾燥する。
 - ・防除指針：186ページ参照



図24 球根腐敗病り病株の生育期後半の症状

2 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・チューリップ予察ほ場(無防除)において5月中旬以降の有翅虫飛来数がやや少ない。(－)
- (3) 防除対策
 - ・モザイク病り病株の抜き取りを徹底する。
 - ・生育後半まで定期的に薬剤を散布する。
 - ・防除指針：187、206～207ページ参照



図25 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

3 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガが0.3頭で平年（0.9頭）より少なく、オオタバコガは2.7頭で平年（0.9頭）より多かった。（±）
- ・6月24日にかけて気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・防除指針 194、198、202、207、208、211、212 ページ参照

令和6年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月1日～9月30日」

令和6年度水田畦畔等の草刈り運動について

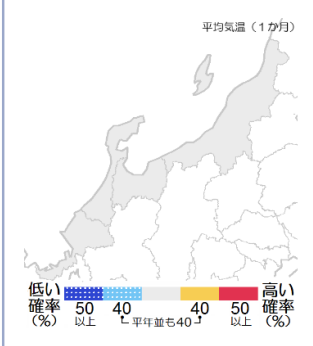
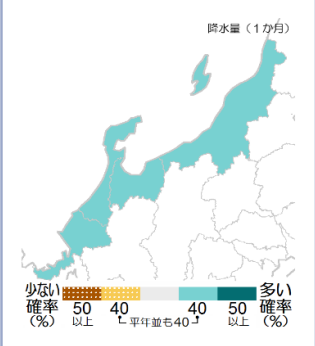
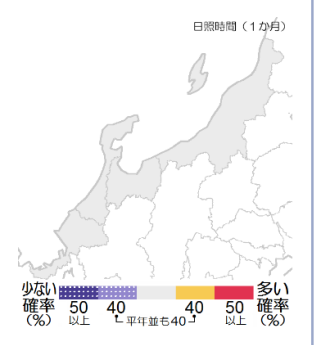
- 斑点米や着色米の発生を防ぐため、カメムシ類や病原菌の発生場所である、畦畔や雑草地の草刈りを県下全域で徹底する
- 運動期間 6月28日（金）～7月7日（日）
 一斉草刈り日 6月29日（土）～ 30日（日）

北陸地方 1か月予報

5月23日
新潟地方气象台 発表

<向こう1か月（5/25～6/24）の天候の見通し>

- ・期間のはじめは低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。
- ・向こう1か月の気温はほぼ平年並ですが、2週目は冷涼な空気に覆われるため低く、3～4週目は暖かい空気に覆われやすくなるため高いでしょう。

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北陸地方	低30 並 40 高30% ほぼ平年並の見込み	少20 並 40 多40% 平年並か多い見込み	少 40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

